

小学校英語概論におけるオンラインレッスンの導入について

中垣 州代

畿央大学教育学部現代教育学科 (〒635-0832 奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2)

The utilization of online lessons in an introductory course on elementary school English education

Kuniyo NAKAGAKI

Department of Education, Faculty of Education, Kio University
(4-2-2 Umami-naka, Koryo-cho, Kitakatsuragi-gun, Nara 635-0832, Japan)

要約 2020年度より、小学校3・4年生で外国語活動、5・6年生で外国語科が実施されることとなった。それに伴い、大学では小学校英語概論が必修となり、授業場面を意識しながら、実践的な英語運用力を身に付けることが求められている。その英語運用力の一つとして、外国の人に通じる発音等の技能が指導者として必須となる。また、コミュニケーションを図る資質・能力の育成が小学校・中学校・高等学校の学習指導要領で一貫として求められていることから、指導者となる上で、コミュニケーションについて深く考えることが重要となる。そこで、これらに効果的な方法として、外国人講師によるオンラインレッスンを導入したところ、大きな成果が見られた。

Keywords：小学校 外国語 発音 コミュニケーション オンラインレッスン

はじめに

2020年度の前期において、1回生の英語コミュニケーションと3回生の小学校英語指導法を担当したところ、多くの学生に発音等の課題があった。このことから、後期の小学校英語概論における発音等の技術向上のためには、個別指導が必要であると考えた。また、小学校・中学校・高等学校と一貫として求められる「コミュニケーションを図る資質・能力」を育成するには、指導者自身がコミュニケーションについて深く考えることが必要であり、そのためには、体験から学ぶことが有効であると考えた。

そこで、2回生138名、4回生2名が受講した小学校英語概論の授業の一環として外国人講師によるオンラインレッスンを導入した。学生1名につき2回のレッスンをオンライン会社と契約をし、1人25分のオンラインレッスンを小学校英語概論15回の授業回数のうち、第11回の「音声の指導」と第14回の「国際理解と国際交流」の授業内に位置づけた。音声やコミュニケーションについての基礎的な内容は、あらかじめ授業内で押さえた上で、オンラインレッスンを行うこととした。COVID-19感染拡大となる恐れのある密を避けるために、大学で一斉に行うのではなく、各自が各家庭で指

定期間内の都合の良い時間に予約をし、受講することとした。

1. オンラインレッスンの実施

1.1 事前・事後指導

事前に、学生には、オンラインレッスンの目的、内容、実施期間、レッスンを受けるにあたっての注意事項や進め方を伝えた。遠隔授業であったため、レポートによる事前課題に取り組んだ後、オンラインレッスンを受講するように指導した。オンライン会社の許可を得て、オンラインレッスンの様子を録音することができたため、レッスン終了後は、その録音を聞きながら、事後課題に取り組むように指示した。そして、レポートと録音した音源を提出するよう伝えた。

1.2 音声指導のためのオンラインレッスン

音声指導のためのオンラインレッスンの目的は、次の2点である。

① 英語の発音等の技術の向上を図る。英語の発音等を講師の先生に個別に指導してもらうことで、自分の弱点を知り、今後も発音・強勢・リズム・イントネーション等に注意を向けていけるようにする。

② 英語の発音等への意識の向上を図る。良質のインプットを与えることのできる指導者にならなくてはならないという意識を高めていく。

内容としては、文部科学省が『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』の中で示している Classroom English を学生が読み、その発音・強勢・リズム・イントネーション等の修正を行ってもらうこととした。

実施期間は、12 / 4 (金) 9:30 ~ 12 / 10 (木) 23:59とした。

事前指導としては、デジタル教科書や文部科学省の You Tubeを用いて、発音・強勢・リズム・イントネーションを練習し、どこを強化しなくてはいけないか、自己分析した内容をレポートに書くこと、それらについて意識し、オンラインレッスンを受ける上で、自分が特にめあてとしたいことを書くように指示をした。

レッスンが開始したら、学生は、そのレッスンが大学の授業の一環であること、その目的、後でフィードバックをもらいたい点について外国人講師に説明を行った。その後、互いに5分程度で自己紹介をし、次に学生が Classroom English を読み、アドバイスももらいながら修正し、進めていった。音読する Classroom English の資料を学生が事前にオンライン上のチャットボックスに添付しておき、講師はそれを見ながら指導する形とした。時間に余裕がある場合は、『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』の基本英会話も読み、アドバイスももらいながら進めていった。最後に、レッスン全体としてのコメントももらった。

事後指導としては、技能面の向上・意識面の向上についての振り返り、講師の先生からのアドバイスやコメント内容とそれを受けて自分の考えを書き、アンケートに回答する形とした。

1.3 コミュニケーション指導のためのオンラインレッスン

コミュニケーション指導のためのオンラインレッスンの目的は、次の2点である。

① 外国語活動や外国語科で使用する表現などを用いたやり取りの向上を図る。実際のコミュニケーションにおいて、外国語活動や外国語科で使用する表現を正確に使用できるようにする。

② コミュニケーションを円滑にするためのストラテジーを活用しながら、「心を通わすやり取り」の向上を図る。コミュニケーションが途切れてしまわないように、ストラテジーを使用し、円滑なコミュニケーショ

ンについて、学習者の立場として考えたことを整理し、指導者としてどのようなことを大切にしていかなければいけないのかを考えられるようにする。

内容としては、外国語活動や外国語科で使用する表現などを用いながら、自己紹介をしたり、互いの国のクリスマスや正月などの文化についてやり取りをしたり、自分の興味ある内容についてやり取りを行うこととした。実施期間は、年末年始を挟んだため、少し長く設定し、12 / 24 (木) 9:30 ~ 1 / 4 (月) 9:00とした。

事前指導としては、オンラインレッスンを受ける前に、コミュニケーションストラテジーをレポートに書くことを指示し、授業内の内容を再確認させるようにした。次に、目的として挙げている2つの目標を意識し、学習者、そして指導者としての立場から「コミュニケーション」について考えながら、オンラインレッスンを受けることを押さえた上で、自分が特にめあてとしたいことを書くよう指示をした。小学生の気持ちが分かるように、伝えることが難しい際に、辞書は使用しないことを留意点として事前に伝えておいた。

1回目と同様で、レッスンが開始したら、学生は、このレッスンが大学の授業の一環であること、その目的、最後にフィードバックをもらいたい点について外国人講師に説明をした。話す内容としては、自己紹介、互いの国のクリスマスや正月について、その他、学生が興味ある内容についてとした。

事後指導としては、外国語活動や外国語科で使用する表現などを用いたやり取りの向上、ストラテジーを活用した「心を通わすやり取り」の向上についての振り返り、講師からのアドバイスやコメント内容とそれを受けての自分の考え、コミュニケーションの指導において、指導者としてどのようなことを大切にしようと考えたかをまとめるよう指示をした。そして、アンケートへの回答を求めた。

2. 学生の振り返り分析とアンケート結果

学生の記述における振り返りについては、質的記述研究の方法を用いて分析を行った。記述の内容から、共通点を見付け、カテゴリーを育成し、更にテーマ別に分類し、その見直しと修正を行った。人数においては、複数の内容を記入している学生もいたため、受講人数とは一致していない。

アンケートにおいては、1.大変そう思う、2.そう思う、3.あまりそう思わない、4.全くそう思わないの4件法による回答数を集計した。

2.1 音声指導のためのオンラインレッスン

2.1.1 振り返り分析

表1：「技能面の向上」における記述分析

テーマ	内容（カテゴリー）	人数
発音・強勢・リズム・イントネーションの向上	発音が向上した	66
	強勢ができるようになった	13
	リズムが向上した	12
	イントネーションが向上した	19
真似ることによる細部の技能向上	脱落や同化が言えるようになった	2
	口の動きがわかった	4
繰り返しによる技能向上	リスニング力がついた	2
	すらすら言えるようになった	2
コミュニケーションの向上	表情を変えて感情を込めて言うようになった	1
	身体全体で話すようになった	1

表2：「意識面の向上」における記述分析

テーマ	内容（カテゴリー）	人数
内発的動機づけ	苦手意識が楽しさや意欲へと変容した	6
	英語で話すことが楽しいと思えた	16
同一化的動機づけ	発音等の弱点を克服し、英語力を高めたい	39
	もっと英語に触れる機会を増やしたい	25
取り入乐的動機づけ	発音等の意識を高めることの重要性に気付いた	18
	英語力を高めなくてはいけないと思った	16
	積極的に英語に触れなくてはいけない	3
指導者意識	ゆっくり、はっきり言うことの大切さを知った	10
	笑顔で話すことの大切さを知った	6
	感情を込めて話すことが大事だと思った	1
	自分の力で伝えるためのストラテジーの必要性に気付いた	7
	言いたいことを伝えようとする意識が向上した	1
	相づちのバリエーションを増やしたい	1
	相手意識をもつことが大事だと思った	3
	自信をもって話さないと声が小さくなると気付いた	1
	指導者として大事なことに気付けた	3
	褒められるとうれしかったから、子どもを褒めたい	20
自信	英語を話すはずかしさや抵抗がなくなった	2
	自信が付いた	5
	伝えたいことが伝わる喜びが味わえた	1
自信の喪失	英語を教えることへの自信が少しなくなった	1

2.1.2 アンケート結果

1. 大変そう思う、2.そう思う、3.あまりそう思わない、4. 全くそう思わないの4件法でアンケートを行った。

表3：「発音指導のためのオンラインレッスン」アンケート

(n=127)	1	2	3	4
今後も発音・強勢・リズム・イントネーション等に注意を向けていこうと思えましたか。	85.8% (109人)	14.2% (18人)	0%	0%
良質のインプットを与えることのできる指導者になろうという意識は高まりましたか。	72.4% (92人)	26.8% (34人)	0.8% (1人)	0%

2.2 コミュニケーション指導のためのオンラインレッスン

2.2.1 振り返り分析

「コミュニケーションの指導において、指導者としてどのようなことを大切にしようと考えたか」という問いに対する記述による回答を分析した。

表4：「コミュニケーション指導で大切にしたいこと」における記述分析

テーマ	内容 (カテゴリー)	人数
より良いコミュニケーションの伝え方	言い換えやジェスチャーの使用の有効性に気付かせること	9
	ストラテジーを使用し、円滑なコミュニケーションを楽しむこと	20
	伝えたいことを伝えようとする気持ちやその楽しさ	19
	心を通わせるやり取り	3
	自分の考えを伝えること	1
	気持ちを込めた話し方	1
より良いコミュニケーションの相手意識	相手が理解できる英語表現の使用で意思疎通すること	2
	相手の目を見て相づちをうったり答えたりすること	5
	相手意識をもつこと	10
	自分ばかり話すのではなく、相手にも尋ねること	5
正確な英語の定着	伝えたいことを自分の力で伝え、教師が recast すること	4
粘り強さ	聞いたり伝えたりする際に諦めない姿勢	2
異文化理解	文化の違い、ことばの違いを気付かせる指導を行うこと	1
	日本の文化を伝えることができるようにすること	1
自己効力感をもてる手立て	児童が自信をなくしたり英語への嫌悪感を抱いたりしないように指導すること	2
	不安を払拭し肯定的に学ぶことの大切さを伝えること	6
	ゆっくり児童の力を信じること	2
	困っている児童を見守ること	3
	児童を励まし、結果でなく過程を認めて褒めること	3
技能向上の手立て	何度も同じ表現を繰り返して慣れさせること	2
	相手が言っていることを聞き取る力、推測する力を向上させる指導	4
意欲向上の手立て	児童に興味をもち、理解をしようとする気持ちをもって子どもから引き出すこと	1
	日常的に英語を使うことができる環境作り (掲示など)	1

	授業づくりにおいて、児童が楽しめる工夫を行うこと	1
	コミュニケーションの機会を増やすこと	1
	授業の中で実際に外国の人と話す機会を設けること	1
指導者の意識と 技能向上	自分自身がコミュニケーションを楽しむこと	4
	自分の英語力を高めること	9
	自分がコミュニケーションストラテジーを身に付けること	2
	児童に分かりやすい英語を伝えること (ジェスチャー、言い換え、ゆっくりと話すなど)	4
	児童に会話が深まる質問をすること	1
	児童が何を伝えたいか読みとろうとして、児童から伝えたいことを引き出すこと	4

2.2.2 アンケート結果

1. 大変そう思う、2. そう思う、3. あまりそう思わない、4. 全くそう思わないの4件法でアンケートを行った。

表5: 「コミュニケーション指導のためのオンラインレッスン」アンケート

(n=107)	1	2	3	4
外国語活動や外国語科で使用する表現などを用いたやり取りを高めることができましたか。	37.4% (40人)	49.5% (53人)	12.1% (13人)	0.9% (1人)
円滑なコミュニケーションのあり方について考えることができましたか。	70.1% (75人)	29.0% (31人)	0.9% (1人)	0%

3. 考察

3.1 音声指導のためのオンラインレッスン

講師から、発音等に問題がないと言われた学生が若干名いたものの、多くの学生は、発音・強勢・リズム・イントネーションについてアドバイスを得て、技能面の向上を実感することができたことがわかった。自分では気付かなかった発音やイントネーションなどの指摘をしてもらえたことが良かったと多くの学生が回答していることや講師の口の動きを真似ることで、習得しやすかったとの回答から、たった25分のレッスンではあるもののマンツーマンによる個別のレッスンは効果が大きかったと言える。

アンケートの「今後も発音・強勢・リズム・イントネーション等に注意を向けていこうと思えましたか」の問いに対して、「大変そう思う」「そう思う」と回答している割合は100%となっていることから、技術向上への意欲も高まったと言える。

意識面における自由記述においてカテゴリーを分析したところ、多くの部分において、心理学における「学習動機づけ」の内発的動機づけ、外発的動機づけである同一化的動機づけや取り入れ的動機づけに分類することができた。英語を話すことが楽しいといった内発

的動機づけとしては、もともと苦手意識があった学生が意識の変容として挙げているところが特徴的である。英語を使うことの価値に気付き、もっと英語に触れて英語力を高めたいという同一化的動機づけにおける回答が最も多く、オンラインレッスンが自律的な学びのきっかけとなったことが窺える。また、教師になるために英語を勉強しなくてはいけないという取り入れ的動機づけが2番目に多い結果となった。オンラインレッスンを受講したことが、指導者となる自分自身が英語力を高めなくてはいけないという動機となったと言える。

また、講師の褒め方やアドバイスから指導者としての意識を高めることもできたことがわかる。特に、褒められたことによって自信を持てたり、うれしかったりしたことから、自分が教師になったら、たくさん褒めることをしたいと書いている学生が多かった。

学生Kは、次のように振り返っている。「言語が違くと、自分の伝えたいことが伝わらないもどかしさがあるが、言語が違うが自分の言っていることが伝わり、反応してもらえた時は、非常に喜びを感じ、もっと話したいことがあるが、表現が分からない、説明しづらいという感情が生まれた。英会話を楽しいと初めて思え、また英語を話したいと初めて思えた。この経験を

児童たちにも感じてもらえるよう、ネイティブではないが、流暢に話せる先生になり、英語に対して興味をもってもらいたいと感じた。」

アンケートの「良質のインプットを与えることのできる指導者になろうという意識は高まりましたか」の問いに、「大変そう思う」「そう思う」と回答している割合が99.2%であることから、指導者としての意識を高められる結果となった。音声におけるオンラインレッスンは、小学校英語を学ぶ学生にとって、発音などの技術を高めるだけでなく、英語力を高める意識への動機づけにも大きく影響したことがわかった。

「あまりそう思わない」と回答した学生1名は、英語への苦手意識が強く、25分という短時間のレッスンでは、自分が良質のインプットを与える指導者になれると思えなかったとのことであった。また、「自信が少しくなった」と記入していた学生1名には、個別に励ましのフィードバックを返し、次年度の小学校英語指導法においても引き続き励ましながら指導を重ねていこうと考えている。

3.2 コミュニケーション指導のためのオンラインレッスン

学生は、事前に対面授業の中で、学生同士でコミュニケーションについて話し合ったり、英語で話をしたりして、コミュニケーションでは何が大切なのか学習済みであった。しかし、実際に外国人講師と話すことで、学生同士のやり取りとは違う難しさを感じたようである。日本語に頼れない状況で、伝えたいことを伝えることの難しさを実感しながらも、ストラテジーを使用することで何とか伝わると感じたり、ストラテジーを活用することで、わからない言葉に遭遇しても対処できる良さを感じたりした学生が多かった。また、伝わらないからこそ、相手の反応があると安心感を抱けたり、相互に話すことで楽しいと感じたり、講師が励ましてくれることがうれしかったりと、自分の体験から、コミュニケーションの際に大事にしたいことを考えることができていた。

アンケートの「外国語活動や外国語科で使用する表現などを用いたやり取りを高めることができましたか」の問いに対しては、学生の英語力が影響しているため、回答にばらつきが出たものの、「大変そう思う」「そう思う」と回答している割合は、86.9%となっている。「円滑なコミュニケーションのあり方について考えることができましたか」の問いに対して「大変そう思う」「そう思う」と回答している割合は、99.1%となっている。このことから、概ね、めあてを達成できていると言える。2つの問いについて、「あまりそう

思わない」「そう思わない」と回答している学生は、講師の英語がなかなか聞き取れず、円滑なコミュニケーションにはほど遠かったことが、レポートや音源から読み取れた。

4. 結語

本稿では、学生の発音等の技術向上やコミュニケーションを図る上で大切なことを体験から深く考えることを目的として、オンラインレッスンの導入を行った方法と学生の意見から分析を示した。その結果、各オンラインレッスンの目的を概ね達成することができ、更にオンラインレッスンが、学生の意識を大きく変え、主体的な指導者としての土台づくりに大きな影響を与えたと言える。

このように、オンラインレッスンの有効性を明らかにした一方、課題も残る。履修登録者数がオンライン実施直前には140名であったものの、全員が受講をしたということではなかった。受講記録は、オンライン会社の管理画面で確認できたため、未受講の者には、本来の提出期限を過ぎても受講するように促した。しかし、それでも、受講しなかった学生がいた。

1回目は127名が受講し、2回目は107名が受講ということから、英語への苦手意識が未受講につながっているのではないかと思える。1回目の音声指導のためのオンラインレッスンは、Classroom Englishを読むということで、さほど難しい内容ではなかったものの、2回目のコミュニケーションは、25分間話し続けることになるため、学生にはハードルが高かったのかもしれない。

これらのことから、英語が苦手な学生を授業の中で励ましながら、英語力向上の手立てを行っていくことが必要であると言える。全ての学生が実践的な英語運用力を身に付け、主体的に学び続ける指導者となっていけるよう、大学での英語指導の在り方を検討していくことが今後の課題となるであろう。

謝辞

オンラインレッスンの導入は、畿央大学における学長裁量教育改革事業に採択され、実施することができました。学生に、このような機会を与えていただいたことを心より感謝申し上げます。